

ザグレブ市内ミマラ美術館での「日本デー」記念講演
日本の文化について

2014年9月27日

駐クロアチア日本国特命全権大使 井出敬二

(以下は、英語で行い、クロアチア語に逐語通訳した講演の日本語概要である。)

【はじめに】

本日は「日本デー」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

この「日本デー」は本年が5回目であり、多くのクロアチアの方々に来て頂き、とてもうれしく存じます。ご協力いただいているミマラ美術館、多くの日本文化愛好家の皆さんに厚く御礼申し上げます。

本日も、日本の武道、料理、折り紙、コスプレ、生け花、日本語教室など、多くの日本の文化が紹介されます。また9月には日本映画をクロアチア国営テレビで放送したり、来週月曜（9月29日）から1週間、ザグレブ市内のトシュカナツツ映画館で日本映画を上映したりもします。10月にはリエカでの映画祭、バラジュディンでの日本建築に関する展覧会、プーラでの尺八とビオラ演奏会も予定しております。

さて皆さんは日本の文化の多様性に触れて、日本の文化の本質は何かなと思われるのではないのでしょうか。そのことについて、本日私からご説明したいと思います。なお意見にわたる部分はあくまでも私の個人的意見であることをお断りしておきます。

【日本の文化の5つの特徴・背景】

日本の文化は、日本人の自然に対する考え方、信仰などを根にして発展してきました。その特徴や背景として以下を指摘したいと思います。

第1に、日本人の由来ですが、日本がアジア大陸と陸続きであった時代にアジア大陸からやってきた人々や、また南方の島々から来た人などから成ると考えられます。日本人はウラル・アルタイ語族であり、民族的にはモンゴル、ツングース、満州族、朝鮮族に近いと考えます。古い宗教はシャーマニズムが強かったと言われています。本日皆さんが聞かれた太鼓は、シャーマニズムとも関連の深い楽器と言われていますが、日本では今日でも様々な場で演奏されることで親しまれており、シャーマニズムだけに関係するものではありません。日本人の古くからの宗教観は、死後の世界と靈魂の存在を信じるものです。これは今日でも日本人の死生観に関わっています。インドで生まれた仏教は、元来は靈魂の存在を信じていませんが、日本に渡った仏教は変質したと言えると思います。日本には死後の世界に関する空想の小説や漫画やアニメがたくさんあります。これらには日本人の死

生観が反映されています。これは日本人のイマジネーションの一つの源泉にもなっています。

第2に、日本の自然についてです。

日本の地理に関連しますが、比較的温和な気候に、美しい四季があることから、自然、特に四季を重視した文化が発展しました。これは料理、詩歌、絵画などに幅広く見られます。日本料理では、四季を反映した食材を使うことが重視されます。俳句では必ず四季を表す表現を盛り込むことが求められています。四季、つまり自然の中で生きているという感覚を常に大切にしている訳です。たとえば、日本庭園では幾何学的な人工的な造形ではなく、自然を写し取った姿が珍重されています。

他方、地震、台風、津波などの厳しい自然災害が多く襲ったことから、一種の諦観、無常観があることを指摘できます。鴨長明（1155年～1216年）という人は、大地震の後の日本人の様子を「方丈記」に書き残しており、これは今でも日本の学生たちが読む古典の一つです。しかし鴨長明はただ嘆いているだけではなく、備えをする必要、絶えず努力していく必要があるというメッセージも残しています。これは後世にとり大変貴重なメッセージです。

第3に、日本が遊牧民族ではなく農耕民族であること、また稲作をする上では不利な、山が多い国土で、かつ最も北で稲作をする国民として、勤勉な勤労が求められていることにより、勤勉な国民性が養われたことを指摘できます。普段の努力が求められ、かつ自分自身を完成させていくという思想が根付きました。日本がなぜ洗練された文化を生み出したかということについて、農耕民族であることは密接に関連しています。**Culture**という言葉の語源は「耕す」ということもあることを想起したいと思います。オリエントやアジアの文化が最も洗練された形で日本文化に結晶化したと言えると思います。また水を皆で利用する必要があることから、「村」において調和のとれた生活をする必要性が生まれました。また自己啓発の意義が高く評価されています。様々な武術は諸外国にもありましたが、日本ではそれらを自己啓発、自己完成の一環としての価値を見出しました。ここに「武道」として日本で発達したのです。

第4に、日本が極東の島国であるという地理的特質と関係しますが、日本文化が諸外国と付き合いそれらの文化を取り入れながら、同時に時には諸外国との付き合いを閉ざし、独自の文化を発達させたことを挙げられます。ユーラシアの文化には、ギリシャのヘラニズム、ペルシャ、インド、トルコやモンゴルの遊牧民族、漢民族等様々な要素があります。それらの影響は注意深く見ると日本文化に見出すことができます。また明治維新後は欧米文化がこれらの国を通ることなく直接伝わりました。しかし日本においては島国という環境の中で、更に文化がソフィスティケートされたと思います。

第5に、文化の担い手、作り手が比較的幅広い国民であることを指摘できると思います。もちろん文化の担い手は、いつの時代、どこの社会でも、多かれ少なかれ「文化人」「インテリ」と呼ばれる人たちだったと思いますが、日本ではそれが、古くから、そして特に近世以降は比較的幅広い国民であったことが指摘できると思います。

- ① 古い例では万葉集（7世紀後半から8世紀後半頃に編まれた）という和歌集に、高貴な人たちが作った歌に加えて、普通の国民が作った歌が収められています。今日でも日本の新聞には必ずと言って良いほど、市民が投稿する短歌と俳句が掲載される欄があります。毎週1回新聞に大きく掲載されます。俳句、短歌は比較的簡単なきまりを理解すれば、だれでも楽しく作れます。これらの文化は江戸時代に発達しましたが、当時、支配階層の武士のみならず、一般庶民のレベルでも「読み書きそろばん」が普及したことが大きな意味があると思います。エマニュエル・トッドというフランスの学者は、世界各国において何時ごろ読み書きが一般国民に普及したかについて調査して比較していますが、日本においては早い段階で読み書きが一般国民に普及したことを説明しています。
- ② 歌舞伎は江戸時代（1603～1868年）に発達した、いわば日本のオペラですが、歌舞伎は一般庶民がチケットを買って楽しんだものです。当時の江戸幕府は歌舞伎を支援しませんでした。
- ③ 浮世絵も庶民が買って楽しんでた版画でした。
- ④ 折り紙は一般の子供が手軽に楽しむもので、きれいな折り紙がなければ、新聞の広告の紙などを使って楽しむことができます。
- ⑤ 漫画、アニメは日本の子供達が楽しむものですが、子供達のみならず大人も楽しめること、これが日本の状況の大きな特徴だと思います。これは他の多くの諸国では事情が異なっており、漫画、アニメは子供だけのためという考え方が他の国ではあるようです。日本の漫画、アニメを支えているのは、膨大なファンたちの存在ですが、それとともに同人誌などを通じて、多くの潜在的なプロの作家たちがいます。
- ⑥ コスプレは、いわばカーニバルみたいなもので、私も本年春リエカのカーニバルを見に行きましたが、一年中楽しめること、そして自分の創意工夫で手作りで服を作ることが特徴です。これは本日皆さん自身に演じて頂きます。日本の外務省はコスチュームプレイの世界選手権を支援しています。
- ⑦ プロに歌うことを任せるのではなく、自分で歌うこと。それはカラオケという文化になりました。

このように文化が幅広い国民により担われていることから、諸外国においても、幅広い国民から共感を得ることができ、ファンの広がり外国にも及ぶのだと思います。伝統文化のみならず、このような新しい文化の普及も、日本政府、日本の外務省が応援している

点が、最近の新しい傾向として指摘できます。

【広い意味での「文化」】

次に指摘したいのは、「文化」ということを広く解釈すれば、それは生活のあり方、生き方を意味します。ここで広い観点からの日本人の「文化」への対し方の特徴を指摘したいと思います。

第1に、日本人は「文化」を広く考えており、生活から「文化」が生み出されると、とらえています。「文化」はインテリだけではなく、生活者、生産者～商業、農業なども含めて～からも作られます。人々が生きる営みがすなわち「文化」になります。

第2に、日本人は常に外国人の暮らしや「文化」にも強い関心を向けています。外国の文化に対する知的好奇心が強いと言えます。常に外国の文物や生活に、自分達日本人の生活を改善するヒントがあるのではないかと考えています。クロアチアに来る日本人は海岸で日光浴をするために来るのではなく、クロアチアの歴史と文化、そしてクロアチア人の生活に関心を持って来ます。

第3に、すぐれた仕事を通じて常に完成を目指し、製造業においてはすぐれた製品を生み出すことも日本の文化と言えます。ここに日本の優れた技術が生み出される文化的背景があります。常に技術を最も限りなく洗練させることが日本の考え方です。一例はロボット技術の開発です。ロボットのアニメを見て育った人たちが、現在ロボット製造に取り組んでいます。

【結論：文化の違いについて】

文化の違いというのは、楽しむ元になりこそすれ、衝突の元になるべきものではありません。この点サミュエル・ハンチントン教授が書いた「文明の衝突」は誤解を生みやすい本だと思います。文化・文明の違いに衝突の責任を負わせようとする思惑を持つ人たちに對して警戒する必要があります。文化の違いについての理解はお互いに持つべきです。

日本大使館で働く私達一同は、日本文化に関心を持って頂ける人達との交流をこれからも活発にさせていきたいと思っています。これからも是非皆さんと力を合わせていきたいと思っていますので、よろしくお願ひ申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

(了)